

カヤツリグサ科の珍しい植物も多いんですね。その中のこれはウキヤガラという植物を観察しています。もう1つの自主的な事業に、今年から始めたネイチャー・イベント・デー活動があります。自然観察やワークショップをやったりと、定例の第1土曜日に活動しています。その枠組みの中で、キッズ対象のネイチャーワークショップというのを特に力を入れて連続してやっています。大体小学3、4年生を対象として、自然の中に連れ出し、わんぱく少年を育てようという活動です。これは、植物に親しませるにはどうしたらいいかということで、草遊びの専門家をお招きして、公園にある身近な植物を使って植物と親しむ活動をしている様子です。子どもに植物といっても、とっつきにくいところがあるんですが、草を使って音を出したり、おもちゃを作ったり、ちょっとした工夫で遊びが可能であることがわかると楽しいんですね。イタドリで茎で笛を作ったり、そういった五感を使った遊びをうまく展開すると、子供たちもとても積極的に飽きずに遊んでいます。簡単なものだけでなく、シュロの葉を使って難しい馬を作ったり、カタツムリを作ったりと、集中して取り組んでいる様子を見ていますと、やはり興味の引き込み方を上手にやれば、子ども達はついてくるということがよくわかります。また、子ども達は虫を観察するのは非常に好きでして、先日は、昆虫の写真家をお招きして、公園を歩きながら見つけた虫について色々解説してもらいました。ところが、先生が見つかる前に子供たちがいるんな虫を見つけてくるものですから解説が追いつかないというような状況で、驚きました。ベニカミキリとこれが先程のゼフィルスの一種ウラナミアカシジミです。環境学習活動としては今のサンクチュアリの活動とネイチャー・イベント・デーの活動に力を入れていますけれども、課題としてあるのは、池の中にすみついてしまったブラックバス、あるいはウシガエルといったトンボや小魚の敵である外来種をどのように駆除していくかということがあります。もっと小魚の天国にして、子どもが雑魚釣りができるような場所になればいいなと思っているのですが、そういう対策をこれから時間をかけて練っていこうと考えています。あるいは近隣小学校で蚕を育てることが教育に取り入れられています、校内に桑の木がなく、長池公園に葉を採取に来られます。もちろん結構なのですが、蚕を学校で飼うのは今さら始まったことではないのに、どうして校庭に桑の木がないのだろうとちょっと不思議です。だったらここの苗木を学校に植えてください。それもあげますからっていうところまでやってあげられたらいい

と思っています。つまり、学校教育でやりきれない部分について長池公園というフィールドを使ってもらったり、あるいは私たちが環境教育のお手伝いをするというそういう分担が良いのかなと思っています。

ただ、環境教育的な活動については人材もまだまだ不足しています。もしかすると学芸大のみなさんの研究フィールドとしても、有効にいろんなことが活かせることがあると思いますので、ぜひまた機会がありましたら、長池公園に来ていただき、連携して何かができればと思います。今日は長時間、おつきあいいただき、ありがとうございました。(会場、拍手)

<講師プロフィール>

内野秀重 (うちのひでしげ)

八王子市 長池公園自然館 副館長

1959年東京都出身。東京農業大学農学部卒。町田市役所を経て、(株)プレイス研究員。この4月より、多摩NTの緑の拠点、長池公園の副館長に従事。昨年秋、NHK趣味悠々「はじめての里山歩き」の企画・出演を担当。八王子市環境審議委員。町田市文化財保護審議委員。

関連団体：野津田・雑木林の会

報告3

「みどりのカラーマップと田んぼの時間」



平井正風氏

小金井市環境市民会議

小金井市環境市民会議の平井と申します。まず、緑マップの作成についてご紹介します。私共の市民会議というのはこの小金井の地域に限られた、今までのお話から比べますとちょっと狭い範囲で、活動の内容もそれほど大規模なものではございませんが、田んぼの時間と合わせて環境学習の一環あるいは市民ができる環境活動の一例としてご紹介させていただきます。まず前半、私の方から緑のカラーマップの説明をした後で、早崎さんの方から田んぼの時間の説明をさせていただきたいと思います。

それでは早速、緑のマップ作成の説明をさせていた

だきます。まず、市民会議が一昨年の9月に発足いたしました。どういうことをやろうかと色々話し合いをしました。その中で緑の調査あるいはこの緑マップの作成という話が出てきたんですが、そのきっかけとして、緑の基本計画というのが小金井市にはあります。その中で緑被率の減少というのが大分問題視されておりまして、ここにありますように1974年には40%程あった緑が98年には30%を切ってしまったということで、この緑の減少に関しての危機感というのが一つあります。それから背景としましては、やはり地球環境も念頭に置いて、環境の衰退、破壊といった環境の質の悪化に対する我々の危機感や環境保全に対する意識の向上、そういったものが働いているのではないかと思います。さらに、市民の中に緑、植物に関する専門家がいたということ、もう1つは比較的高年齢化してきたことによって、退職後に色々なことをやりたいという意欲のある方が地域に増えてきたこともきっかけの1つではなかったかと思います。そういう人たちの集まりである市民会議の中から、この緑について市民の目で、足で確かめてみようというような声が上がりました。

この緑地の変化なんですけど、どのように変化してきたかと言いますと、この薄い緑の所が水田です。周りに樹林地がたくさんありました。昭和4年、1929年の話ですけど、それ以外にも点々と果樹園やその他の樹木の畑、苗木畑ですね。こういったものが小金井周辺にはありました。これが野川でこれが中央線です。こういうようにたくさんの緑があったわけです。それが平成7年、このように減少しました。田んぼは一切ありませんし、樹林というと大体公園、国分寺崖線、そういったところに若干残る程度です。多磨霊園のところは樹林の扱いになっていませんけれども、このように緑が減ってきています。前のと比べるとずいぶん違うのが分かります。

こういったきっかけから活動に入っていったわけですが、どういうことをしたかと言うと、住宅地図に緑の区域や形態を書き込むという作業をまず最初にしました。それで写真を撮って気が付いたところをメモする。データをデジタル化する。それからまだ完成はしていませんけれども、インターネットで情報を公開する。結果に基づいて色々なことを考える。改善策などを提案する。こういったことを活動の内容にしております。

それで1番最初にしたことが見に行くということなんです。自分たちが全員揃って色々な場所へ行きまして、こういった形でデータを取ろうかという勉強会をしました。これが調査の風景ですね。市内の各所に参りまし

た。大体参加人数が十数名で、あとは手分けをしてこちらにあるようなカラーマップ作りをしました。これは小金井市の住宅地図、ゼンリンの地図を出力しまして、全部で96ページございます。その96ページを十数人で分担しまして、ここにあるような色分けをしました。田畑、果樹、苗木、樹林、草地、樹木が少数の公園や学校、こういう形で地図上に色分けをしていきました。まだ完成版ではなくて大変申し訳ないんですが、今日1番肝心の学芸大学がまだ白です（笑）。まだ色が塗れておりません。こちらの地図は手書きなんですけど、この情報を基にデジタル地図にデータを書き込んでいきました。全部で96ページありますけれど、その中に今言った区分け、色を全部貼りこんでいきました。これがデジタルデータで残っています。

こういったものを作ると同時に現地で写真を撮りまして、その現地の情報を簡単なコメントにして添付して、A4のこういうアルバムを作っています。将来的にはこの地図上にデジタル地図上の、ここに赤いポッチがあるんですがこれをクリックするとこちらのページに飛んで情報が見れると、そういうようなシステムを作ることを目指しております。

今後の展開なんですけど、A1地図の印刷配布ということを考えていまして、ここには貼ってありませんけども、玄関入ってすぐのホワイトボードの所に一枚だけ打ち出したA1の地図があります。お帰りの際にご覧ください。そういったものを作って市民に情報として配ろうと考えています。それから今は緑の情報だけです。これ以外の情報を、さらに質を高める形で拡充していこう、当面は生き物の情報を、ここにはたぬきが出没したとか、この辺りにはカラスが巣を作っているとか、そういう情報も色々インターネット上で見れるシステムにしていきたいと考えております。ただインターネット上で情報公開するときに今ちょっとネックがありまして、このデジタル地図をインターネットに載せるのに著作権使用料が20数万円かかってしまいます。そのお金が残念ながら市民会議にはございませぬので、その対策を今色々と考えているところです。

そういったホームページなどで投稿するというのが1つの流れで、緑の情報というのは日々変わっていきます。今日、草地だった所が、明日行ってみるとマンションの基礎工事が始まっているというようなことが多々あります。そういった情報を常に保持するために、定期的な情報の更新をしていく必要があります。目途としては全域的な情報の更新は3年に1回程度、それ以外には、インターネットがもし使えるようになれば、そ

の中で日々の更新を細かくやっていければと考えています。

それからデータの解析と環境施策の提案ということで、こういった情報あるいは地図というのは小金井市の環境を考えていくためのツールとして使いたいと思っています。もちろんこの地図を作ることが最終目的ではありません。これを1つの情報媒体として、この前でみんなが小金井市の環境について語り合えるといったことができる1つのツールとしてこの地図を使っていきたい。あるいはパソコンのネットワークを使って、どういう区分が何%ぐらいの面積あるかというようなことも計算できるようになりますので、データを解析できるツールとしてインターネットを使っていきたいという風に考えております。そこで話し合われたこと、あるいはデータを解析したことを小金井市の環境施策に反映できるような提案に結び付けていきたい、考え方としてはかなり遠大だと思いますが、すぐできるかどうかもこれからの努力次第にかかっているんですが、このような流れで考えています。

小金井市の環境市民会議というのはこの緑のカラーマップ以外にも色々やっているんですが、その1つとして今日はご紹介させていただきました。どうもありがとうございました。続きまして早崎さんの話をさせていただきます。(会場、拍手)

<講師プロフィール>

平井正風 (ひらいせいふう)

小金井市環境市民会議 代表

北海道奥尻島生まれの55歳。昭和59年より野川のほとりに転居し、昨年さらに仙川の近くに転居。子どものころから生きものが大好きで、専門は海洋プランクトン学及び水生生物学。趣味はなかなか行けない溪流釣りやアウトドア。現在、環境コンサルタント会社の非常勤顧問を務める傍ら、小金井市環境市民会議、野川第一・第二調節池地区自然再生協議会、野川流域連絡会、野川ほたる村、わんぱく夏まつりの会、海洋学会海洋問題委員会、沿岸環境関連学会連絡協議会などに所属し、活動中。



早崎 眞佐子氏

小金井市環境市民会議

皆さんこんにちは。環境学習部会の早崎です。環境学習と言いましても、私は全然専門家でもなんでもありません。虫のことも植物のことも、まして田んぼのこともあまり詳しくありません。だけど環境学習が必要なんじゃないかなと思って、主婦、母親の目で子ども達に本当に必要だからと思って、環境学習部会というのを環境市民会議の中で立ち上げました。その時に学芸大学の中にある、プールですが小金井で唯一残された田んぼをおかりしました。小金井から田んぼが消えたのが35年前でしょうか。先程カラーマップでも見ていただきましたが、小金井に田んぼはもうありませんので、せめてこういう環境教育実践施設という場所を借りて田んぼのことをやっていきたいと思い、活動しております。専門家ではないんですが、なぜ田んぼなんだろうというところからお話しようかと思います。

6年前から週五日制になって子ども達が土曜日が休みになった時に、母親として地域で自分の子どもを含めて何かできないかなと、ゴリラプロジェクトというのを始めました。ゴリラは自分の子どもだけでなく他の子どもも育て合うという習性があるんです。野生のゴリラの子育てを見習って、私たちがゴリラみたいに人の子も自分の子も一緒に育てていけたらいいねと、キャンプ、料理、工作などを毎月1回のペースで子ども達と一緒にやってきました。その時期に田んぼをやり始めたんです。千葉に田んぼを貸して下さる方がいて、そこで田んぼを始めた時に、子ども達がこんなにも田んぼの中で生き生きとしていると、大発見だったんですね。私の小さい時に田んぼはありましたが、いつも見るだけで入ったこともないですし、まして田植えや稲刈りなんかやったこともない。お米がどうやってできて自分たちの口に入るのか知らないまま、50年間生きてきてしまったんですね。こういうことをやっている、この年にして子どもと一緒に私も子ども時代をやり直しているという実感があるんです。やって良かったと思える瞬間はもう1回子供時代をやり直せたことかなと本当に思っています。

それで田んぼの時間を、学芸大学をお借りしてやっ

ています。水が田んぼに入ると土がドロドロになってきまして、それで代かきとかやるんですけど、子どもが泥で遊ぶ時みんな最初は恐る恐る足を入れるんです。最初はまだ遠慮がちなんです。でもちょっと汚れてしまえば勢いがついてもう怖いもの無しで、親が見ていようがなんだろうが頭からつま先まで思いっきり泥だらけで遊べるんですね。こんなに遊んでいるところは初めて見ますし、自分でもこんなに思いっきり遊んだことあったのかなと思ってしまう位です。そういう時間で、田んぼを経験できるってことは本当に良かったなと思っています。

(以下、パワーポイントを使い説明)

この田んぼの写真を見ていただければすぐ分かると思うんですよ。子どもの顔つきが、普段学校で勉強している時の顔とはちょっと違うんじゃないかなと思います。

昨年、まだおんぶされている赤ちゃんがいたんですね。でも稲刈りをして最後のお正月飾りを作るころにはよちよち歩きで歩いていました。田んぼの四季を通して子どもの成長も見ていくことができたなと思っています。田植えをして、伸びて、花をつけて、実をつけて、稲刈りをして、脱穀をして、自分達が食べる、子どもが大きくなって歩き始めるその1年を目の当たりにしたという感じでした。1年を通して大体9回、今年は最後に藁工芸をして10回やる予定です。

田んぼの何が良いのかを考えたとき、自然のことだけじゃない、子どものことだけじゃない、日本の文化、歴史、生き方、全ての要素が田んぼの中に凝縮されていると思うんです。私は先程も申し上げた通り専門家ではないので、こういう田んぼのことを一から勉強し直しています。それで田んぼで何をやりたいのかと思ったときに、色々調べたりするとすごい発見があるんですね。田んぼのお祭りのこと1つ取ってみても、稲はどこから入ってきたんだろうとか、お米の経済はどうなっているんだろうとか、もう本当に様々な興味が湧いてくるんです。それを私達だけじゃなくて子どもにも上手に伝えていって、好奇心とか知りたい、やりたいっていう気持ちがこの田んぼの中から起こっていったら良いなと思っています。

最初は野草を探して天ぷらにして食べました。子どもはみんな「本当にこれ食べれるの?」、「食べられるんですか?」と質問してきました。私も食べられるということを知りませんでした。でも食べてみたらとてもおいしかったので、これだったら何かあった時にも、春だけは生き延びていける気がしました(笑)。子どもは

勢いがつくと親が黙認する範囲なら何をやっても良いと思って、木に登ったりですとか、虫も取りたい放題で、最初は馴染めていなかった子ども他の子がやっているのを見て、見様見真似で自分もやってみてどんどんつなげてやるようになるので、関わり方もすごく良いんじゃないかなと思っています。先程もお話した、田んぼに水を入れて遊びだして、泥んこになりながらみんなで力を合わせて代かきをして、最初は恐る恐るなんですけど慣れてきたら泥んこ合戦をしたりしてます。大人も子ども達に混じってやっています。

それでここは昆虫やカエルとかが多くて、私も平井さんも驚いたんですが、いろんな生き物なんかも守っていただけだなと思っています。田んぼは歴史とか文化とか伝統とか言いましたが、やはりそういうこともこういう施設の中でも、田んぼの神様とかそういうことを子ども達に感じてもらいたいなと思って、泥で田んぼの神様を作ったり、みんなが思い思いの造形を作って楽しんだりしました。

それからこれは田植えです。この稲は千葉に行く前にゴリラプロジェクトで行っていた田んぼでお世話になった産直センターの方をお願いして、毎年頂いています。子ども達も丁寧に言われた通りに田植えをします。それで大人も一緒に田植えをして、田植えができたところですよ。田んぼの草とりをしてすっきりして、桑の実もちょっとそこで頂いてジャムを作りました。この桑の実のジャムはとてもおいしいです。子ども達は混ぜるのが好きで、自分達が混ぜて作ったんだと思うときっとおいしさが倍増するんです。ジャムはいつもたくさん作るんですけど、いつも完食です。後は自然観察会です。これは毎年、平井さんをお願いして、いろんな植物を顕微鏡で見たりしています。本当に子ども達の目が輝いていて、ここで網ですくって虫を取るんですけど、「僕も私も」と網の取り合いをして、虫が取りたくて仕方ないといった感じです。また生き物はちゃんと返してあげたりしています。

それからサインボードを作ったりしました。絵もみんな思い思いに、思いっきり描いてくれます。それで看板を立てて、ここは自分達の田んぼなんだという気持ちを持ってもらいました。こういうサインボードを作ると、子ども達が生き物をよーく見るようになるんです。ヤゴを描いてくれたんですけど、すごくそのままちゃんと描いているんですよ。上手いとか下手とかではなく、見た通りありのままに、子どもの目から見たヤゴが描かれているんです。こういうものをもっとたくさん作って、良く生き物を見る、触れる、知る、楽しいというこ

とをどんどん感じてもらいたいです。木の枝に自分で登って、自分で自分の作ったこういうサインボードを括りつけています。

これは稲刈りです。稲刈りも子どもは本当に良く話を聞いてくれています。ここは大人達の出番がたくさんあります。大変な作業なので、バケツリレーじゃないですけど、みんなで協力して手渡ししてやっています。ここでは昨日まで知らなかった人達が、田んぼを通してどんどん仲間になっていきます。

あとは脱穀です。これは昔ながらの機械で、手回し式のトウミですとか脱穀機なんかを使ってやっています。子ども達も「おもしろいね」「これどうなってるの?」「壊れちゃった。どうやって直そうか?」と言っていて興味を持っています。子ども達もやりたくって仕方がないみたいです。手を巻き込まないように大人も付きながらやっているんですけど、それも最初だけです。子どもはすぐにできるようになって、子どもは習うより慣れるという感じで、本当に慣れてくると何でもできてしまうんだなと思いました。

収穫祭もあります。自分達で作ったお米だから、やっぱりおいしいんですね。発表もこの施設でしてくれましたし、お餅つきも一生懸命やってくれました。おにぎりとかお餅を分けるんですけど、その端からなくなっていくんですよ。握っては食べ、ちぎっては食べてという感じで本当においしそうに食べてくれて、本当にやって良かったなと思います。

それで藁工芸を最後にやりました。この藁工芸なんですけど、農工大の繊維博物館のサークル仲間が藁工芸を教えてくださいました。こういったものも残さず伝えていけたら良いなと思います。

やっぱり、何もかも伝わらずに、なくなってしまったら、消えてしまったらお終いで、復活させるのは難しいと思います。今まで発表された先生方もそう思っただらっしゃると思うんですけど。細々とでもいいから自分達が細い糸でつなげていけたら、消えなければ、なくなれば良いから、本当に細くてもいいから何かを守って、続けていけて、子ども達にほんの少しでも伝えていけたらいいなと思って、環境学習「田んぼの時間」をやっています。

まとめですが、生き物がたくさんいて楽しかった、おいしいものが食べられた、知る、触れる。1番良かったなと思うのが、家族の時間があったんです。10時から15時まで、お弁当を持ってきてやるものですから、本当にピクニックみたいな感じなんです。お父さんがいつも帰りが遅くても、土曜日の田んぼの時間だけは

子ども達と一緒に来て、お母さんとお父さんが一緒に作ったお弁当と一緒に食べて、子ども達と時間を共にしたというのは良かったなと思います。それで田んぼの報告書に参加してくれた人達が書いてくれていますので、後でじっくり読んでいただきたいと思います。

たくさん要素が田んぼにはあって、時間やら空間やら、本当に凝縮されているところなので、ずっとここで続けていけたらいいなと思っています。実際、田んぼがここから斜め向こうにありますので、まだご覧になってない方々は是非、帰りにでも休憩時間にでも行って見てきて下さい。終わります。(会場、拍手)

<講師プロフィール>

早崎 眞佐子 (はやさきまさこ)

小金井市環境市民会議環境学習部会

小金井市在住。2001年に子どもの体験活動を行うためのグループ「ゴリラプロジェクト」を近所の普通の母ちゃんたち4人で結成。キャンプ・料理・工作などの活動を通し、子どもたちに豊かな体験をさせたいという思いを形にしてきた。また小金井市環境市民会議では、東京学芸大学環境教育実践施設での田んぼづくりを通して環境学習活動を行っている。

報告4

「環境学習と流域ネットワーク」

鈴木 眞智子 氏

NPO法人

多摩川エコミュージアム

事務局長



こんにちは。NPO法人多摩川エコミュージアムの事務局長をしております鈴木と申します。また今ご紹介に預かりましたように河口域、中流になりますけれど、「等々力水辺の楽校」も主宰しております。お気づきかと思いますが、とどろき水辺の楽校の「楽」も、それから皆さんのお手元に「多摩川が教えてくれたもの」という2005年度の環境学習の報告書がございますが、この「がく」が二つとも「学」ではなく「楽」になっています。これは fan school、楽しい学校という意味であえて使っているので、誤字ではありません。

まずエコミュージアムということにつきまして、川崎